

明治のはじめの教科書

1872年(明治5)の学制によって、近代的な教育制度が始まります。この時期から86年の小学校令によって教科書検定制度が施行されるまでは、ある程度自由に各地域で教科書が発行され使用されていました。最も多く発行されたのは、各地域で印刷された「小学読本」「地理初歩」などの教科書でした。これらは、文部省と東京師範学校を中心に編集されたものでした。さらに、従来の往来物の流れをくむものや地域の歴史や地誌など、執筆・編集自体も県内で行われた教科書も少なくありませんでした。

このうち、「ホルストブック」①は足羽県活版局が、学制公布直前の72年4月に文部省の出版許可をうけて刊行したものです。これは英語の入門書で、英国ダブリン(現在アイルランドのダブリン)で出版されたものをもとに活版で印刷されました。当時、同活版局が出版していた「撮要新聞」の記事から小学校の開校にあたって、英語教科書が不足していた「大野小学校」がこの本を求めたことがわかります(古谷尚子「明治初期越前大野における初等教育」)。

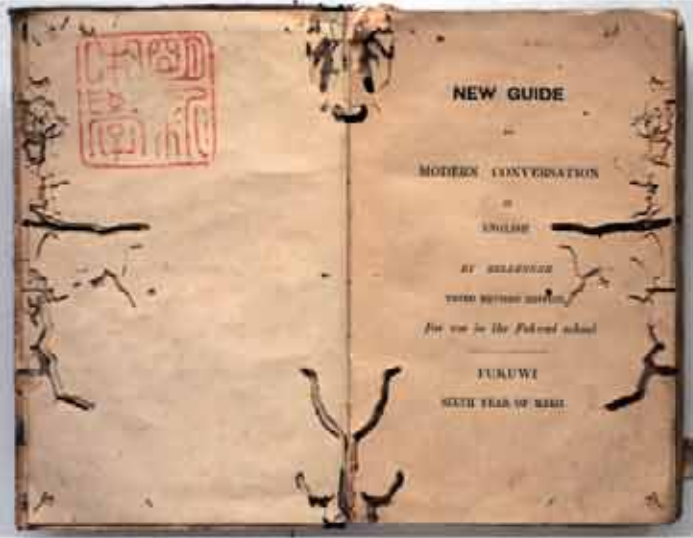
また「NEW GUIDE」②は、翌年に出版された会話の語句を中心とした教科書です。表紙に「For use in the Fukuwi school(福井の学校で使うために)」とあります。

福井に招かれた外国人教師グリフィスの71年9月の日記には「活字の箱を開けた」「印刷機など(アメリカ)の商品が届いた」などの記述があり、「ホルストブック」と「NEW GUIDE」は、グリフィスが日本に持ち込んだ活字をもとに印刷された可能性があります。

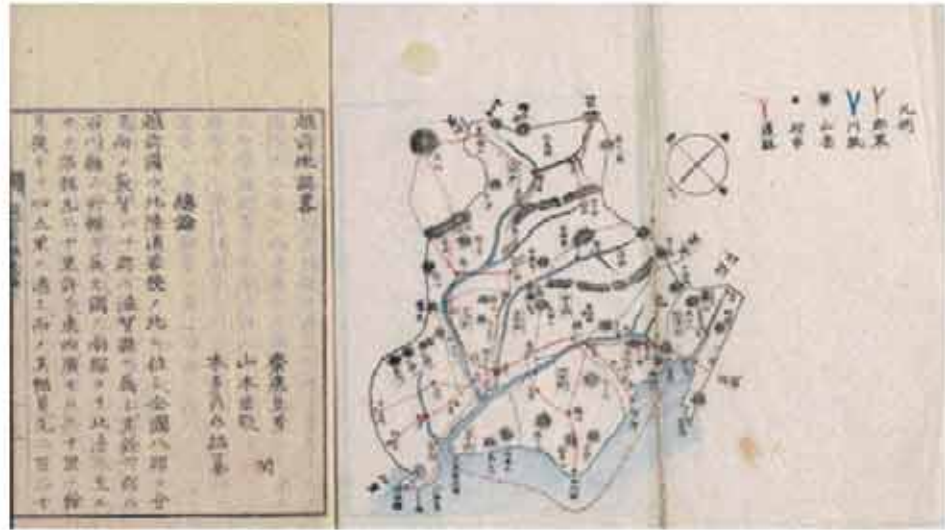
「越前国地誌略」③は、76年に県の学務課長であった本多鼎介によって著された木版の地理教科書です。「総論」「山脈」「川脈」「海岸」のほか越前の各郡ごとの歴史を含めた構成になっており、男大途皇子(継体天皇)や朝倉氏、永平寺や丸岡城など著名な人物や名所旧跡が取り上げられています。その他、県内の教科書として、「単語篇」(1873年)、「越前国村尽」(1880年)、「書取必携」(1882年)④などがあります。



①『ホルストブック』
1872年 国立国会図書館蔵
「ホルストブック」は、国立公文書館蔵のものとおわせて2点が確認されています。扉には「FIRST BOOK OF LESSONS FOR THE USE OF SCHOOLS」とあり、「ホルスト」とは「ファースト」のこととわかります。



②『NEW GUIDE TO MODERN CONVERSATION IN ENGLISH』
1873年 福井市立図書館蔵
左上に藩校の流れをくむ明新中学(藤島高校の前身)の印があり、11冊残存しているなかの1冊です。



③『越前国地誌略』
1876年 福井県立歴史博物館蔵



④県内で出版された教科書
福井県文書館蔵



『啓蒙知恵の環』
1872年 福井市立図書館蔵
福井藩出身の英学者の瓜生寅(於菟子)によって著された近代科学知識の紹介書です。社会におけるさまざまな事柄が記載されており、文部省の「小学教則」に読者の教科書として取り上げられています。